

「特別支援教育だより」例

A 小学校 特別支援教育相談係通信



# 特別支援教育だより

2005,11,17

No. 1



## 「支援への道 ① ～気付き・相談～」

1 学期後半から、A小スタイルの特別支援教育を進めてきています。ここで、A小スタイルの支援への道筋を先生方と再度確かめてみたいと思います。名付けて A小特別支援教育「支援への道」です。



○先生、ずいぶんお悩みのようですね。



行動や学習上で気になる子の背景には、環境要因、心理的要因、発達上の要因などがあると考えられています。これらは単独というより絡み合っていることが多く、対応がうまくいかない時には二次的な障害を引き起こし、暴力、破壊的行為、非行、引きこもりなどにつながるおそれがあります。特性に応じた早期の適切な対応が必要です。



なんでなんだ？  
親のしつけの問題か？  
怒っているんじゃないか？  
それとも俺の問題か？

授業中ボーとしている。  
好きなことをしている。  
全体の指示が通らない。

すぐカッとなる。  
授業時間に飛び出してしまいます。

先生の気付きの目がとても大切ですね。  
気になる子どもを「手のかかる子」としてではなく「何か支援をすることで伸びていく子」と受け止めてください。

LD,ADHD,高機能自閉症等の軽度発達障害の子どもたちは、障害として気付かれにくく、次のように捉えられてしまうことが多いようです。

LD：やる気がない、怠けている、努力が足りない 等

ADHD：わがまま自分勝手、しつけができていない 等

高機能自閉症等：変わった子、わがまま、冷たい 等

(それぞれ障害については 8 月にお配りした資料をご覧ください)  
障害の特性により、注意や集中、動きをコントロールする等様々な困難を抱えています。努力しても自分ではなかなかうまくできないで困っています。



でも、俺は、どうしたらいいんだ？

手がかかると困っていたけど、本人が一番困っているんだ。



クラスに気になる子がいたら、校内の特別支援教育コーディネーターや学年主任の先生、養護教諭、特殊の先生等に相談したり、学年会で対応を考えるなどしていきましょう。担任だけが抱えるのではなくチームでかかわっていくのがよいと思います。

### 【保護者との連携】

学校の様子を保護者に伝え家庭との連携を取ることは大事です。しかし、度重なるトラブルや対応の難しさだけを伝えても保護者を不安にさせてしまいます。逆によいことばかりでも適切ではありません。保護者のパーソナリティーに考慮しつつ ①学校での子どもの様子 ②それに対するクラスの様子や担任の対応 ③学校で考えているサポートの方針などを丁寧に伝えるのがよいようです。保護者も「子どもを支援するチーム」の一人として引き入れるようにしていきたいものです。保護者が学校の支援と同じ歩調を取ると支援の効果が違います。